



新湊ロータリークラブ週報

例会 毎週金曜日 12:30～13:30
会長 伊藤 雪枝 幹事 牛塚 松男



インスピレーションになるう

第 2260 回例会 2018 年 10 月 12 日(金)

「外部卓話」

- ◆点 鐘 伊藤 雪枝 会長
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆ゲスト チューリップテレビ報道局 砂沢智史氏

出席報告<会員数:43 名>

出席者	出席率	修正出席率
32 名	71.11%	82.22%

- ◆結婚記念祝 中川・酒井・金田光・堀田
- ◆誕生祝 米田・棚辺
- ◆幹事報告 例会終了後理事会を開催します
10 月・12 月度請求書配布



ニコニコBOX報告

- 伊藤会長 チューリップテレビ砂沢様、卓話楽しみにしています。また、国際奉仕委員会の皆さん留学生のお世話ありがとうございました。
- 澤武 ケーブルテレビさんで曳山祭りの中継をさせて頂きました。14 時間という長時間でしたが大変楽しく貴重な経験でした。
- 牛塚 フレンドシップイン新湊、委員会の皆さんお疲れ様でした。砂沢さん卓話宜しくお願ひします。
- 中瀬 砂沢さんようこそ新湊 RC へ。卓話楽しみです。
- 穴田 11/1 に市民功労賞を受賞する事になりました。小生の人生もこれで一丁あがりとなります。
- 堀田 フレンドシップ in 新湊無事終わりました。協力いただいた方々ありがとうございました。
- 米田・棚辺 誕生祝を頂いて。
- 京谷・堀田 結婚記念祝をいただいて。母親に渡したら大喜びでした。
- 金田安 突然の指示でカテーテルアブレーションをし今朝退院しました。医学の進歩に驚いています。
- 倉谷 平穏に日々を過ごしています。感謝!!

ニコBOX 累計額 ￥337,000

卓話

「富山市議会 政務活動費の不正とその後の議会」

チューリップテレビ報道記者

砂沢 智史氏

富山市議会の政務活動費不正事件は 2016 年に起きた事件です。私たちチューリップテレビは、情報公開請求で入手した約 9000 枚の政務活動費に関する資料を読み解き、さらに関係者への取材を行いスクープとして報じました。その結果、最終的には 14 人の市議が不正を認めて辞職し、不正金額の総額は 6,000 万円を超える状況となりました。



政務活動費とは、議員たちが行う政治活動のいわば「経費」です。富山市の場合、議員一人当たり月 15 万円、年間 180 万円まで交付されるのですが、何にお金を使って、どのような政治活動をしたのかが一目で分かるように、使う際には必ず領収書や使用目的を記載した公文書を残さなければならないと条例に定められています。

政務活動費の不正は、富山市だけでなく全国各地で起きています。例えば最近では、「号泣会見」で話題となった元兵庫県議の野々村竜太郎さんや、不倫報道で注目を集めた元神戸市議の橋本健さんも政務活動費の不正によって詐欺罪などで起訴されています。富山市議会の政務活動費の不正が大々的に取り上げられたのは、14 人の市議が辞職するという規模の大きさが理由だったと思います。

突然の議員報酬引き上げ

今回の取材を始めたきっかけは、2016 年の春にさかのぼります。当初の取材の目的は、政務活動費の不正を取材することではなく富山市議会の議員報酬引き上げ問題でした。富山市の場合、議員報酬は元々月額 60 万円だったのですが、2016 年 4 月、突然ひと月当たり 10 万円以上も大幅に引き上げたいと議会が求めたのです。

政務活動費へ着目

私たち報道機関の人間が普段取材を通じて目にするのは、議会の中で活動している議員の姿が大半でした。一方で、地方議員が日々、議会の外でどのような活動をしていて、どのような成果を出しているのかという実態は必ずしもよく知りませんでした。それを取材しようと考え、その手段として、彼らの活動の経費である政務活動費に着目を

したのです。そして政務活動費を使った明細である、支出伝票や領収証を情報公開請求の手続きをとり入手したところ、そこには不正が眠っていたということです。では、この不正が長年に渡って行われ、これまで発覚しなかった理由は何か？それは、富山市議会の体質にありました。

閉鎖性が引き起こしたモラル低下

不正が起きた原因は、議員のモラルの低下です。そうしたモラルの低下の一因には、当時の富山市議会が非常に閉鎖的な議会だったことがありました。富山市は県内の自治体としては予算規模も最も大きな自治体なのですが、その割に当時は本会議のケーブルテレビやインターネットでの中継も行われていませんでしたし、情報公開請求をするにしても非常に面倒な手続きと費用が必要でした。

地方議会への無関心

それと同時に、閉鎖的な議会で長年市民への積極的な情報公開を行ってこなかったため、市民も議会に対して関心を示していませんでした。このことも、議員のモラル低下を引き起こした一つの原因だと思います。議員報酬引き上げを決定する際、議会には傍聴者が満席になるぐらいの人が集まりましたが、普段の議会の傍聴者は一人か二人しかいない状況でした。市民も、地方議員や地方議会に対して何も期待しておらず、関心がなかったのです。

透明性が腐敗防止の歯止め

そうならないためにはどうすれば良いか。例えば、ホームページで情報を公開するとか、ケーブルテレビ中継で議会の様子が分かるといった形で、仕組みとして議会の透明性を高くしておかなければいけないと思います。その上で市民の側も関心を持つことが重要だと思います。議会や市当局に対して、市民は税金の使い方や政治活動について日常的に見ているという意識付けることが、権力の不正や腐敗に歯止めをかける事に繋がると思います。

では、その後の富山市議会はどうなったのでしょうか？

不正発覚の翌年、2017年4月に富山市議会では任期満了に伴う総選挙が行われました。この選挙は、定数38に対して58人が立候補する大乱戦になりました。

この選挙では、不正でいったん辞職した元市議もカムバックしようとして立候補したのですが、やはり票を集めることができず落選しました。また、辞職には至らなかったものの、不正や不適切な処理をしていた議員も8人立候補しましたが、8人のうち2人は落選し、残る6人も、得票数を大きく減らす結果になりました。市民の反応がクレバーな形で現れた結果になりました。

一方、閉鎖的だった議会の制度は大きく変わりました。全国の地方議会の改革度を調査している、早稲田大学マニフェスト研究所というところがあります。この研究所の調査によると、富山市議会はこの2年で「情報共有」の指標が、全国53の中核市のなかで、42位から3位に躍進しました。その理由は、政務活動費に関する情報公開です。①不正の発端となった伝票や領収証はインターネットで簡単に見られるようになりました。以前は面倒な情報公開請求の手続きを行い、1枚あたり10円のコピー代を払っ

て、ようやく手にすることができたものです。②さらに、不正を再発させないために、公認会計士による第三者の審査機関を作りました。この審査機関は、政務活動費を使う前（申請段階）と使った後（事後）の2度にわたって厳しくチェックを行うものです。

また、このほかにインターネットやケーブルテレビで本会議の中継を行ったり、市民の家庭に配られる議会だより、議案ごとに議員一人ひとりが賛成したか反対したのかを示すようになりました。

不正発覚前、富山市議会の議員の7割は自民党の議員で、共同歩調をとる公明党や旧・民進党系の会派を合わせると、議会全体の9割の勢力でした。このころ、少数会派の意見は数の力で抑えられ、また、自民党側に少数会派の意見を聞くと言う姿勢も見られませんでした。

その結果、閉鎖的な議会が長く続いたのだと思います。現在、自民党側の勢力は7割近くまで低下しましたが、少数会派に歩み寄ると言う姿勢は見られません。先日も、小中学校へのエアコンの設置を議員たちが森市長に要望に行く場面があったのですが、自民・公明側の会派と少数会派のグループが、同じ内容にも関わらず別々に要望する事態が起きていました。富山市議会では未だに会派間の争いが続いていて、議会一丸となって市民の思いをカタチにするというところに至っていないと言えます。

早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査で、毎年上位にランクインする議会ではこのような傾向は見られません。

例えば、岐阜県の可児市議会では、市民の声を拾うために、高校生とともに市の課題解決を考えたり、子育て世代のママを集めた意見交換会を定期的に開いたりしています。また、所属する会派とは関係なく、議員たちが5～6人のグループを作って、地域の公民館などに出向き、複数の会場で議会報告会を開催しています。

また、長野県北部の飯綱町議会には、町民を政策サポーターに任命して一緒に政策を考え町に提案する「政策サポーター制度」や、町民から意見を聞く「モニター制度」があり、積極的に住民の意見を吸い上げようとしています。この町の議員報酬は月17万円4,000円と、決して高額ではありませんが、政策サポーターや議会モニターを経験した町民が、新たに議員を目指す動きがあり、議員のなり手不足が解消されています。この2つの議会に共通することは、議会一丸となって役割を果たしているという点です。議会の役割とは、市や町の行政をチェックし、住民のためにより良い政策提案を行うことが本来の仕事です。しかし、議会の中で意見がまとまらなかったり、争ったりしているようでは、到底果たすことはできません。私たちも税金を払って、自分たちの町の議員に報酬を支払っています。繰り返しになりますが、議会が私たち住民のために、本当に役立つ働きをしているのか、自分の住んでいる地域の道路を直したりとか、公園を作る口利きなどではなく、市全体のメリットを考えた政策を提案しているのか。住民たちがしっかり見つけていくことが大事だと感じています。